

2023 年度情報処理技術遺産認定式

旭 寛治 | 歴史特別委員会 幹事

情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館の認定制度

現存する情報処理技術関連の貴重な史料に対して、その保存の努力を称えるとともに末永く後世に伝えることを目的として、情報処理学会歴史特別委員会によって設けられた制度。第1回の2008年度は国立科学博物館で、翌年からは全国大会の場で認定式を行い、情報処理技術遺産には認定証の盾を、また分散コンピュータ博物館には認定書とプレートを、それぞれ関係者に贈呈している^{1)~3)}。

全国大会初日の3月15日の午後、大会優秀賞等の表彰式に続けて同じ枠の中で情報処理技術遺産の認定式を実施した。情報処理技術遺産は、2019年度にスーパーコンピュータ関係5件を認定した後は新たな認定を行っていなかった。しかも2020年3月はコロナ禍の影響で全国大会の現地開催が中止となったため、情報処理技術遺産の認定式も行われなかった。したがって、全国大会での情報処理技術遺産の認定式は実に5年ぶりのことであった。なお、分散コンピュータ博物館の認定はなかった。

□ 情報処理技術遺産

今回認定された情報処理技術遺産は次の1件である。

- **NEC PC-100**：表示する全画素をメモリに置くビットマップ・ディスプレイ機構を有するパーソナルコンピュータ。現在では一般的なアーキテクチャだが、メモリが高価だった当時においては前衛的とも言える構成であった。また、画面を操作するためのマウス型ポインティング・デバイスを備え、グラフィック・ユーザインタフェースを設計中心に置いた現代型PCのさきがけであった。1983年、日本電気製造。

□ 私の詩と真実

例年と同様に、認定式の前の時間帯に「私の詩と真実」のセッションを開催した。これはコンピュータバイオニアの大先輩をお招きして、若い頃の研究生活の思い出や今の若い世代に伝えたい経験談などをお話いただくシンポジウムである。第70回大会から開催しており、第16回目となる今回は、京都大学名誉教授の佐藤雅彦氏と日本電気OBの発田弘氏が講演された。

佐藤氏は「計算と論理の迷い道—情報処理と証明—」と題して、中学3年のときに創刊間もな



PC-100の全景。縦に設置したカラー・グラフィックディスプレイはXerox社ALTOのデザインを踏襲したものである



ディスプレイは横向きにも設置することができた



国産量産機で初めてマウスが採用された

い『数学セミナー』の「エレガントな解答をもとむ」にはまり、数学者になることを決心されて以来、数学一筋に歩いて来られたことを話された。一松信氏や John McCarthy 氏等多数の優れた研究者に出会い親交を深める中で、理論をつくるだけでなく、それをコンピュータ上の道具として実現するという「青春の夢」が形成され、東大、東北大、京大で「夢の中」の研究活動を続けられたとのこと。そして退職された現在もなお「夢の中」に滞在中であるとのことだった。講演の最初に、学生時代に使用された FORTRAN のマニュアルやコーディングシートの現物を Web カメラで投影されたのが興味深かった。

発田氏は、1963 年に日本電気に入社され、退職された後も 2023 年まで本会歴史特別委員会の委員長を務められたので、その間の活動を振り返り「コ

ンピュータとの 60 年」と題して話された。日本電気では、メインフレームと呼ばれた大型コンピュータの開発や製品計画に従事された。また、海外企業との協業を推進され、長期にわたる出張の中で実感された日本の得意・不得意や外国企業との文化の違いを事例を挙げて紹介された。歴史特別委員会関係の話題では、情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館の認定制度創設には、日本の輝かしい歴史を次世代に継承したいという発田氏の思いが込められていると話され、実博物館の実現が夢であると述べて話を結ばれた。

パンフレット「情報処理技術遺産」(写真)や Web サイト「コンピュータ博物館^{☆1}」に、認定された遺産や博物館の解説記事と写真が掲載されているので、ご覧いただきたい。



「私の詩と真実」講演者
佐藤雅彦氏



「私の詩と真実」講演者
発田弘氏



認定式の様子
NEC PC-100
(上) 本機を所有する NEC パーソナルコンピュータ (株) 商品企画本部 森部浩至氏
(下) 本機開発を担当された元 NEC の後藤富雄氏
(右) 本会会長

参考文献

- 1) 和田英一：情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式，情報処理，Vol.50，No.5，pp.369-374 (May 2009)。
- 2) 旭 寛治：2019 年度情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館，情報処理，Vol.61，No.7，pp.762-764 (July 2020)。
- 3) 旭 寛治：2022 年度分散コンピュータ博物館認定式，情報処理，Vol.64，No.6，pp.270-271 (June 2023)。

(2024 年 3 月 25 日受付)

☆1 <https://museum.ipsj.or.jp/>



情報処理技術遺産パンフレット



情報処理技術遺産認定証

旭 寛治 (名誉会員)
asahi@fw.ipsj.or.jp

(株) 日立製作所基本ソフトウェア本部長、ストレージソリューション本部長、(株) 日立テクニカルコミュニケーションズ代表取締役等を歴任。1999 年本会理事、2005 年副会長。歴史特別委員会幹事。コンピュータ博物館実行小委員会主査。本会フェロー。